

福山市まなびの館 ローズコム（福山市中央図書館・福山市生涯学習プラザ）

正会員 江 副 敏 史 君

正会員 喜 多 主 税 君

正会員 萩 森 薫 君

「福山市まなびの館 ローズコム」は福山市中央図書館を核として生涯学習プラザ、子育て応援センターなどを併設した複合施設である。福山市の中心部にある中央公園—旧福山藩校「誠之館」跡地に生涯学習と交流の場づくりを目的として建設された。

この建築の特色は第一に、内部空間と外部空間が視覚的に一体化した開放的な閲覧スペースづくりを目指していることである。

公園につながる東と北の全面を、床から天井まで方立てのない強化合わせガラスで内外を区切り“公園を散歩しながら本と触れるような感覚をもたらす”閲覧空間を実現している。同時に、公園や商店街から図書館の閲覧風景が垣間見え、内外の活気が呼応する透明感の高い建築空間が作りだされている。

4階の会議室ゾーンでは、居室の採光を光庭からとることによって外周回廊型の廊下とし、来訪者が福山市のまち並み風景を眺められるようにして内外の一体化を図っている。

第二の特色は、モジュラープランニングを基本とした建築計画的アプローチによる空間づくりが追求されていることである。

約40mスクエアの平面を1,950mmを基本モジュールとしたグリッドで分割し、このグリッドに合わせて書架や閲覧席を配置するという古典的手法によって平面計画を行っている。このグリッドはコンクリート打放しの格子梁構造の天井として表現されている。

書架と閲覧席がゾーン毎に混在して連続するこの閲覧空間は、伸びやかで活気があり、閉塞感を感じさせないスペースとなっている。

第三の特色は、軒の出の深い「庇」を採用して環境への配慮を追求しながら、内外の連続性を強調し、特徴のあるファサードをつくりだしている点である。

この「庇」によって、年間を通じて日照を遮るブラインドの必要がなく、季節による自然光の移り変わりや1日の時間の流れを常時感じとることができる連続性の高い空間が確保されている。

奥深い「庇」によって水平線が強調された外観は、彫りが深く軽快で、伝統的イメージを想起させるものとなっている。

この施設は完成後、以前の2倍の80万人の利用者があった。これは全国の公立図書館のトップレベルであるという。またJR福山駅前から中央公園に至る商店街の活性化を引き起こすなど地域とのつながりを意識した設計の効果も現れ始めている。

巨大な開口部を合わせガラス1枚で区画していることを熱負荷の観点から疑問視する声もあるが、以上のようにさまざまなテーマに挑戦しながら、完成度が高く、新鮮で高質な建築空間が創出されていることを評価したい。

また、この建築が、ガラスと庇の組合せによって、「ガラス建築」の新しい造形的可能性を提示していることにも注目したい。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。